FACULTY OF LETTERS

多様な業種への安定した就職実績

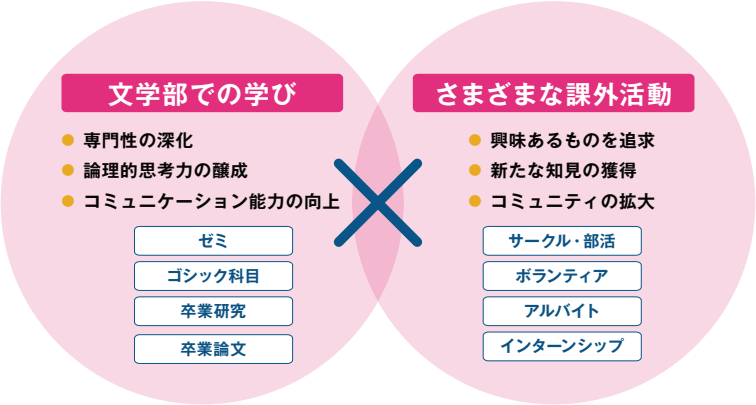
文学部の学びの特徴である「正解のない問いに向き合う」姿勢は、多様な業界で通用する論理的思考力や多角的な視点を養います。また、少人数のゼミで議論を重ねることで、他者の背景を理解する「傾聴力」と、みずからの考えを伝える「発信力」という、社会の基盤となる対話力も磨かれます。こうした汎用性の高い力が、卒業生の幅広い活躍を支えています。

文学部での学びと充実した大学生活で「次のステージ」へ

専門性を深める「学び」と、サークルやアルバイト、ボランティアなどの「課外活動」を両立することで、多様な業種に対応できる柔軟な人間力を養います。

また、「学び」の過程で培われる論理的思考力や多角的に物事を考える力に加え、課外活動で得られる新たな知見やコミュニティは、社会でも大いに活かされます。

教養を磨きつつ外の世界で経験を積むことが、未来を切り拓く確かな土台となります。



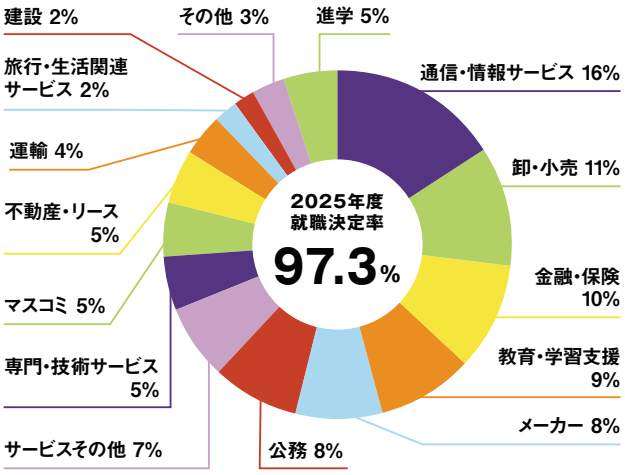
2025 年度 中央大学文学部卒業生就職実績

教育業界や公務員への強さがあり、全国の教育委員会や国家および地方公務員への就職実績があります。また、IT業界や卸・小売、金融、メーカーなど幅広い業界への就職実績もあります。特定の業種に偏らず、論理的思考と豊かな教養を武器に、民間・公務の双方で安定した実績を維持しています。

主な就職先（20社）

東京都庁／埼玉県庁／厚生労働省／東京都教育委員会／神奈川県教育委員会／ NTT東日本株式会社／株式会社NTTデータグループ／ KDDI株式会社／株式会社三井住友銀行／株式会社三菱UFJ銀行／株式会社横浜銀行／東京海上日動火災保険株式会社／損害保険ジャパン株式会社／株式会社大和証券グループ本社／株式会社ファーストリテイリング／株式会社ニトリ／株式会社良品計画／株式会社日立製作所／ TOPPANホールディングス株式会社／株式会社SUBARU

業種別就職実績



活躍する卒業生

本学での学びを糧に、それぞれの分野で活躍する卒業生たち。
在学中に培った経験や価値観が、社会の中でどのように生かされているのか。
その姿をご紹介します。

憧れの教員をめざして

～文学部での学びと子どもとの関わり～

長澤 龍翔（ながさわ りゅうと）
2021年度卒業（教育学専攻）
私立中央大学附属高等学校（東京都）出身
就職先：埼玉県公立校教諭

教員という仕事に憧れて

私は、中学・高校時代の部活動の顧問の先生に憧れて教員を志しました。厳しさの中にも情熱と温かさがあるその先生は、生徒が練習に取り組む姿勢を真っ直ぐに受け止め、卒業後も遠方の全国大会まで応援に駆けつけてくれました。生徒に寄り添い、努力を認め、成長を支える。そんな厳しさと優しさを兼ね備えた姿に、私は強く惹かれました。

小学校の教員を意識したのは、高校時代のボランティア活動がきっかけです。そこでは、子どもたちが「できた！」「わかった！」と喜ぶ瞬間をたくさん目の当たりにしました。成長の喜びを素直に表現する姿に触れ、私もその過程に深く関わりたいと考えるようになりました。

文学部の学びと課外活動

教師になる夢を実現するため、中央大学の教育学専攻に進学しました。そこでは教員養成のみならず、教育社会学や教育制度学、多文化教育など、教育に関する学問を幅広く学びました。多角的な視点を得たことで、子どもを理解するには家庭や地域、文化的背景まで視野を広げることが不可欠だと気付くことができ、この学びは今も大いに生かされています。

また、自主的に探究を行う「サブゼミ」では特別支援教育ゼミに所属しました。多様な教育ニーズや発達への理解、支援方法についてみずから問いを立て、仲間と議論を重ねて専門性を磨いた経験は、私にとって大きな財産となっています。

学外では、ボランティアサークルや小学校でのインターンシップに注力しました。八王子市内の小学校へ通い、授業サポートや事務を経験する中で、特に印象的だったのは先生方の「人を育てる」という強い覚悟です。現場での実務に加え、教師の在り方を間近で学べたことで、子どもたちの人格形成という重要な時期に寄り添いたいという想いが強まり、小学校教師という目標がより確かなものとなりました。

大学4年間の集大成と教員として

これらの経験を経て、4年次には中学校で3週間の教育実習を行いました。実習では実際の教育現場において、授業だけでなく行事や部活動にも携わることができ、教員という仕事の魅力を再確認する素晴らしい機会となりました。

実習後に受講した「教育実践演習」では、4年間共に学び、同じ目標を持った仲間とかけがえのない時間を過ごしました。それぞれの実習経験を共有し、将来について語り合った日々は、今でも私の大きな支えとなっています。

教師になるという目標を掲げて歩んだ中央大学での4年間。教育学専攻での幅広い学びに加え、教職課程や課外活動を通じて多様な経験を積むことができました。そこで得られた「多角的に物事を考える視点」や「主体的に学ぶ姿勢」は、今の私を形作る基盤となっています。

現在は、教員資格認定試験*を経て、公立小学校に勤務しています。実際の学校現場には、多様な背景を持つ子どもたちが集まりますので、今後は一人ひとりの家庭環境や文化的背景、保護者の方々の想いに真摯に向き合うことを大切にしていきたいと考えています。子どもたちが安心して過ごせる学級を作り、それぞれの個性を最大限に引き出せる教師をめざし、精一杯努めてまいります。

※本学の教職課程は主に中学・高校の教員をめざす学生を対象とし、小学校の教員は該当しません。長澤さんは独立行政法人教職員支援機構の教員資格認定試験を経て教員免許状を取得しています。

文学部の特徴的な学びと支援

教職課程

中央大学では、中学・高校の教員になりたいと考えている人のために教職科目が開設されています。教職課程は、1年次の後期から始まり、教員の資格を得るために専門的な科目を習得することになります。文学部のカリキュラムは教職に関する科目と重複しているものが多く、他学部と比較して教職の単位を修得しやすい点が特徴です。

資格課程

社会のさまざまな場面で活躍する人材を輩出するため、多様な資格を取得できる環境を整えています。文学部では、社会教育主事、学芸員、司書、司書教諭と4つの資格課程を設置しており、専門職としての資格を取得することで、将来の選択肢を広げることができます。

グローバル・スタディーズ

世界で活躍できる人材の養成および学生の外国語運用能力を含めたコミュニケーション能力の向上を目的とする文学部独自の派遣プログラムです。国内外で実施する地域研究やグローバリゼーションを主眼とする実態調査・研修活動などを行います。

クラス担任制・指導教員制

文学部では学生にきめ細かな教育を提供するため、少人数で学ぶ授業科目を多く設定しています。また、1年次はクラス担任制、4年次の卒業論文や卒業研究では指導教員制を設けています。担当教員は、履修や進路の相談を含め、学生生活全般にわたる相談に応じる心強い味方です。

共同研究室

専攻ごとに共同研究室が設けられており、専門図書の貸し出し、自習、レポートや卒業論文の資料収集などで利用されます。その他にも、読書会やディスカッションの場として、また教職員への相談の場としても利用されます。共同研究室には専門スタッフが常駐しており、資料や文献の探し方などのサポートを受けることも可能です。

奨学金

学業や留学、調査活動、ボランティアなど、学生の意欲的な挑戦を後押しする多彩なプログラムを用意しています。経済的な支援のみならず、一人ひとりの「学びたい」という志を尊重し、豊かな経験を支える環境が整っているのが大きな特徴です。

■ 奨学金一覧

奨学金名	対象	給付額	給付人数
学長賞・学部長賞給付奨学金	学力・人物ともに特に優れ、本大学全体を活性化する人材であると期待される学生	学長賞：約 41 万円 学部長賞：23 万円	学長賞：1 名 学部長賞 28 名
文学部給付奨学金		12 万円	20 名程度
文学部短期留学プログラム給付奨学金	本学の留学制度を利用して留学する学生	18 万円	20 名程度
文学部長期留学奨励奨学金		留学期間 1 年間：36 万円 留学期間半年間：18 万円	15 名程度
学外活動応援奨学金	学外活動（国内外でのフィールドワーク、ボランティア、インターンシップなど）に取り組む学生	最大 30 万円	20 名程度

文学部事務室の役割

中央大学文学部事務室は、学生一人ひとりが安心して充実した大学生活を送れるよう、きめ細かな支援を行っています。履修登録や成績管理、授業・試験に関する手続きに加え、奨学金の相談にも丁寧に対応します。また、学生生活や進路に関する相談窓口としても機能し、教員と連携しながら教育環境を整えています。ご父母の皆さまにも安心していただける体制で、学生の成長をしっかりと支えます。

教員
メッセージ

本学部の教育を支えるのは、各分野で専門性を深めてきた教員陣です。
研究と教育の両面から学生の学びを導く教授陣をご紹介します。

きめ細かな指導が生む「知の融合」

文学部教授／学部長補佐　髙瀬（たかせ） 堅吉（けんきち）

文学部の学び

13専攻1プログラムを擁する文学部は、多様な学生の知的好奇心に応えるべく、きめ細かな指導を行っています。

その特徴の一つが「クラス担任制」です。1クラス30～40名の少人数編成とし、私が所属する心理学専攻では、担任教員が2年間にわたって学生一人ひとりに目を配ります。私も担任として、誰一人取り残されることのない「居場所づくり」を心掛けており、日々、学生たちを見守っています。3年次以降のゼミ指導へとつながるこの体制は、他大でも類を見ない充実したものといえるでしょう。

各専攻に設置された「共同研究室」は、専攻独自の図書を備えた「学生生活のハブ」です。専門スタッフが資料の探し方やレポートの書き方を親身にサポートしています。時には議論や雑談が生まれるここでの「余白」の時間は、豊かな人間性と教養を育む、またとない機会となります。

また、文学部には教職に加え、社会教育主事、学芸員、司書、司書教諭の4つの資格取得課程があります。私も教職課程を担当していますが、「人を理解し、教える技術」は教育現場だけでなく、職場での人材育成や子育てにも活きる「実学」だと伝えています。

教員と学生がアジア各国やアメリカ・オーストラリアなど現地へ赴く「グローバル・スタディーズ」も、文学部ならではの学びのプログラムです。異文化に根ざした価値観に触れる経験は、日本という枠を超えた多角的な視座を養います。

学びを社会へ接続する「ゼミ活動」

私のゼミでは、学問が社会と切り離されたものではないことを実感してもらうため、企業との共同研究（産学連携）を積極的に取り入れています。たとえば、出版社と「漫画が脳や心に与える影響」を科学的に検証したり、企業と共同で育児相談に応える「AI保育士」を開発したりしています。

ゼミでは合宿やスイカ割り大会など、「楽しい」体験も大切にしています。感情が動く経験の中にこそ知識は深く定着し、共有した思い出は卒業後のつながりを育みます。卒業生がコミュニケーションアプリを介して現役生の悩みにアドバイスを送る光景も日常的で、「縦のつながり」の濃さも文学部の特徴といえます。

不確実な時代を生き抜く知性を

文学部での学びの本質は、「文字（ことば）」を大切にすることにあります。自分の真意を伝えるために、そのことばと丁寧に向き合い、考え抜く。この訓練を4年間繰り返すことで、あらゆる職種の基盤となる「論理的思考力」と「高度なコミュニケーション能力」が自然と備わります。文学部の学びは社会で役立つのかという声も耳にしますが、卒業論文を通じて経験する「先行研究の調査→問いの抽出→仮説の検証→考察」というプロセスは、社会での仕事の進め方そのものです。この作法を身につけた学生は、どのような業界に進んでも通用するたくましさを持っています。

現代社会は、長期的視点で人類の豊かさへの貢献を問える人材を求めています。本学の文学部は、そのような「シンクタンク」機能を担う知性を育てる場です。多様性にあふれるこの環境で「問いの力」を蓄え、自信を持って社会へ羽ばたけるよう、私たち教員も引き続き全力でサポートしてまいります。